



釘

～ 「油断大敵」「ねじが緩む」 ～

釘ははじめに頭たたかれ
これはお前の役目ぞと
よくよくたたきこまれる
それなのにいつの間にか
頭持ち上げ心が緩む
するとまた頭たたかれ
心入れかえ身を引き締める
一度たたきこまれたら
わが身くさるまで
われとわが身を引き締めて
与えられた役目を果たすがよい
ぐらぐらして
身の引き締まらない釘は
いつかは抜かれて捨てられる



< 遠藤 俊夫 >



「しかみ像」(家康)

「油断大敵」とは、大したことはないだろうと油断すると、思わぬ失敗を招くことから、気の緩みを戒めた言葉です。少しでも注意を怠れば、大きな失敗を招くこともあるため、慣れや勘違いなどから来る油断が何よりも恐れるべき敵なのです。また、「ねじが緩む」という言葉の意味は、規律が緩んでしまい、気持ちや行動がだらだらしていたり、緊張を欠いていたりする状況のことを言います。具体的には、気の緩みで怪我や失敗をしてしまった事象、状況において、よく使われる表現です。ね

じはもともと物と物とをしっかりと固定したり、結びつけたりする場合に利用される部品ですが、固定部分が緩んでしまうと、結びつけができなくなり、やがて外れてしまいます。ねじが外れてしまうことによっては、重大な事故にも繋がってしまいます。人間も気持ちという意識や緊張感がなくなってしまうと、やがては問題を引き起こすこととなります。ねじが緩むことによって緊張感もなくなり、信頼を脅かす要因を引き起こしてしまうのです。何事も節度のある行動に心がけるようにしなければなりません。

「誰も見ていないからいいか!？」という気持ちこそ、ねじが緩んでいる証拠です。

小さなねじの緩み、小さな油断を生み出すことのないよう、自らの言動や心のあり方を注視させていけば思わぬ失敗や危険から回避させていくことができると思います。